

# 令和 3 年度 若松原中学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画，網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

## 1 教育目標（目指す生徒像含む）

### （1）基本目標

人間尊重の精神を基盤として、高い知識と豊かな心、たくましさを身につけ、地域社会や国家、世界に広く目を向けた人間を育成する。

### （2）具体目標（目指す生徒像）

- ① 自ら学ぶ生徒 ② 心豊かな生徒 ③ たくましい生徒 ④ 視野の広い生徒

## 2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

### テーマ 「あたたかい学校，活力のある学校，人の集まる学校」

生徒一人ひとりを目指す生徒像に近づけるためには、地域学校園の小中学校、家庭、地域が連携しながら、それぞれの力を発揮していくことが重要である。本校がその核としての役割を自覚し、関わる人々の希望となれるよう、目指す学校像（3つの柱）を掲げる。

- ・ 明るいあいさつや花と緑にあふれ、互いに認め、励まし、称え合える、あたたかい学校
- ・ 地域社会や将来を見据え、子どものよさが十分に活かされる、活力のある学校
- ・ 生徒や教職員が誇りに思い、地域のコアとなり、地域に愛される、人の集まる学校

## 3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

### （1）あたたかい学校

- ・ 心の教育，望ましい人間関係づくりを図る
- ・ 学びやすい，生活しやすい環境を整備する
- ・ 花と緑を大切にしたい潤いある環境を整備する
- ・ 教職員の資質向上と健康管理に努める

### （2）活力のある学校

- ・ 学業指導の充実に努める
- ・ 積極的な生徒指導を推進する
- ・ 特別支援教育の視点を十分に生かす
- ・ 体力・気力の向上と健康教育を推進する

### （3）人の集まる学校

- ・ 生徒が楽しいと感じる学校づくりに努める
- ・ 地域の人材，資源を活用した教育を推進する
- ・ 職員が働き甲斐のある職場づくりに努める
- ・ 地域活動や災害時避難場所として活用する

### 【若松原地域学校園教育ビジョン】

#### 「つなげよう学び きたえよう心と体 共にのびようWGS学校園」

9年間の学校教育にかかわる教職員が，その思いと責任を共有し，連携して児童生徒の発達段階に応じた一貫性のある指導を継続的に実践する。

## 4 教育課程編成の方針

Society 5.0の到来を見据え，子どもたちが地域や国家・世界とのつながりの中で生活していることを自覚し，広い視野で物事を見て，考え，判断し，行動しようとする意欲と態度をもてるよう，教育課程と指導体制を工夫する。

- （1）日本国憲法，教育基本法，学校教育法及び学習指導要領の関係法令，及び県教育行政基本方針，市教育委員会管理運営規則，市学校教育スタンダードの示すところに従って編成する。
- （2）地域や学校の実態を踏まえ，生徒の心身の発達段階や特性を十分考慮しながら，人間として調和のとれた育成を目指して特色のある教育課程を編成する。
- （3）小中一貫教育，GIGA スクール，宇都宮学の趣旨を生かし，学校教育全般にわたる教育活動の充実を目指して，適切な運用が図れるよう配慮して編成する。

## 5 今年度の重点目標（短期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

### 令和 3 年度 若松原中学校スローガン 「挑戦」

#### （1）学校運営 ～教育目標の達成を目指すチーム学校づくり～

- ・ 生徒や家庭，地域，関係機関等と学校教育目標や学校経営の理念を共有し，その達成に向かう集団づくりの推進に努める。
- 教職員が一丸となって学業指導にあたるとともに，業務の効率化と働き方改革を進める。
- ・ 学校の公開や情報発信を積極的に行いながら，地域のコアとして愛される，開かれた学校づくりの推進に努める。

#### （2）学習指導 ～子どもが意欲的に取り組む授業，学びに向かう集団づくり～

- ICT機器の利点を生かし，主体的，対話的で深い学びを実現するための授業改善を図る。
- ・ 生徒の学習意欲の向上を図るための教材，教具の工夫改善に努める。
- ・ 学力の定着のために，家庭学習の習慣化と質の向上を図る。

(3) 児童生徒指導 ～ともに成長できる集団づくりと自己指導能力の育成～

- ・共に課題に立ち向かい、互いに認め、励まし、称え合うことで、自他共に成長できる集団づくりを推進する。
- ・自ら考え、判断し、責任を持って実行できる自己指導能力の育成・向上を図る。
- ・困難を克服し失敗から立ち上がる力（レジリエンス）の育成に努める。
- 自己肯定感、自己有用感をはぐくむ教育相談に努める。

(4) 健康・体力・保健安全 ～強い体、折れない心、健康的な生活を目指して～

- 基礎体力の向上と粘り強く取り組む意欲を養うための指導方法を工夫改善する。
- ・自他の生命や心の健康を大切にし、安全で豊かな生活を送れるよう、全教科領域でカリキュラムマネジメントを推進する。
- ・感染症対策や防災教育を通して、危機に対応できる能力の育成を図る。

6 自己評価（評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所を下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
目 指 す 生 徒 の 姿	A 1 生徒は、進んで学習に取り組んでいる。 【数値指標】 評価項目 A 1 の生徒の肯定的回答が 85%以上	・授業の振り返りにおいて、「主体的に学習に取り組む態度」の自己評価をさせ、主体的な取組を促す。 ・学習方法の指導を充実させ、家庭学習に進んで取り組ませる。	B	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 90.5%で、数値指標を上回っている。昨年度から 1.3 ポイント減少したが、教職員 93.2%、保護者 91.3%と良好である。 【次年度の方針】 ・I C T 機器を積極的に活用し、個別最適化を図るとともに、主体的な学びを実現するための授業改善を進める。 ・学習の計画や見通しを立てさせ、家庭学習に進んで取り組ませる。
	A 2 生徒は、思いやりの心をもっている。 【数値指標】 評価項目 A 2 A 11 の生徒の肯定的回答が 85%以上	○道徳の授業において、思いやりについて深く考える場面を設定するとともに、教育活動全体を通して思いやりの心を育む。地域学校園でも重点項目として推進する。 ・福祉教育の充実を図り、障害をもった方や高齢者などへの思いやりの心を育てる。	B	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 90.5%で、数値指標を上回っている。教職員・保護者ともポイントは伸びたが、地域住民は 14.7 ポイント下回った。 【次年度の方針】 ・地域学校園の道徳教育において思いやりを重点項目として積極的に推進し、福祉についての理解を深める。 ・黄ブナ作りや塚山清掃活動などを通して、地域貢献、思いやりの心を育くむ。
	A 3 生徒は、きまりやマナーを守って、生活をしている。 【数値指標】 評価項目 A 3 の生徒の肯定的回答が 85%以上	○家庭や地域に生徒の様子を理解していただき、ルールや法律を遵守する判断力と行動力が身に付くよう、見守りを要請する。 ・日常的な心の教育のさらなる充実と、教科となった道徳の時間の指導方法の改善を図る。 ・生活マナー等においては、学校生活のあらゆる場面でその都度指導していくとともに、家庭や地域へ協力を要請していく。 ・毎月の生徒指導目標に対しての目標達成シートを記入させ、自分の行動を振り返らせるとともに、目標をもって行動ができるようにする。	B	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 86.4%で、数値指標を上回っている。教職員・保護者の肯定的回答もそれぞれ昨年度を上回った。 【次年度の方針】 ・各種たよりやホームページを通して、学校の活動の様子をお知らせし、学校と家庭・地域が一体となって生徒を支援していく環境づくりを継続して整えていく。 ・来年度も継続的な指導を図る。きまりやマナーを守ることにに関して、全校生徒にアンケートをとり、生徒自らルールを決め、実践するなど、自主的・自律的な態度の育成に努める。

<p>A 4 生徒は、時と場に応じたあいさつをしている。</p> <p>【数値指標】 評価項目 A 4 の生徒の肯定的回答が 90%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒会生活委員会を中心に「礼節週間」を実施し、授業開始時の「語先後礼」のあいさつの拡大を図る。</li> <li>○地域学校園での生徒会のあいさつ運動を通して、リーダーの育成を図る。</li> <li>・「あいさつ運動」や登下校指導を通して、地域との結びつきを強め、地域全体であいさつが飛び交う雰囲気作りを中学校から発信していく。また、地域社会の一員であるという自覚を持たせ、地域のために協力していく心を育てていく。</li> </ul>	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の肯定的回答は 94.6%で、数値指標を上回っている。教職員・保護者の肯定的回答もそれぞれ昨年度を上回った。</li> </ul> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生活委員会を中心とした礼節週間を継続するとともに、授業前後の「語先後礼」について、引き続き生徒と職員の意識向上を図る。</li> <li>・学年があがるごとにあいさつができるようになっていく。そのため、3年生をリーダーとして、校内外においてあいさつがとびかう雰囲気を醸成することで校外でも実践ができるよう指導を図る。</li> </ul>
<p>A 5 生徒は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 評価項目 A 5 A 7 の生徒の肯定的回答が 80%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新学期の始めに目標を立てさせ、学期末に評価を行う。</li> <li>・学習や部活動、学校行事など目標をもって取り組ませ、生徒同士がお互いに励まし合いながら、より高い目標に向かって努力する態度を育てる。</li> <li>・努力、がんばりを賞賛し合う雰囲気づくりを行う。</li> </ul>	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の肯定的回答は 84.9%で、数値指標を上回っている。保護者の肯定的回答も 80.6%と昨年度を上回った。</li> </ul> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本年度同様、目標達成シートを活用して、月ごとに目標をたて、スモールステップでの成長の場を設定する。</li> <li>・若中プライド賞の創設をうけて、クラスや学年において、個人の努力や頑張りを賞賛する雰囲気を醸成を図ってきた。来年度も継続して指導していきたい。</li> </ul>
<p>A 6 生徒は、健康や安全に気を付けて生活している。</p> <p>【数値指標】 評価項目 A 6 の生徒の肯定的回答が 80%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保健体育委員会を中心に、昼休みの運動を呼びかける。</li> <li>・手洗い、マスクの着用、3密回避など進んで行わせ、新型コロナウイルス感染症等の感染症の予防に努めさせる。</li> <li>○地域学校園内で連携を図りながら、食育の充実を図る。</li> <li>・給食指導、学級活動等で栄養のバランスが大切であることを理解させるとともに、その実践が健康な生活につながることを継続して指導いく。</li> <li>・避難訓練や交通安全指導等で危険回避能力や判断力を養う。</li> <li>・毎月行う安全点検を教職員と生徒が一緒に行うことで、生徒の安全管理への意識づけを図る。</li> </ul>	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の肯定的回答は 92.2%と、数値指標の 80.0%を大きく上回っている。昨年度の生徒肯定率と比較しても、0.2ポイント上昇している。</li> </ul> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・感染症対策を行いながらも、生徒が基礎体力の向上に取り組めるよう、体育の授業や部活動で過密状態にならないよう運動量を確保する。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症等の感染症対策を継続するために、保健だよりや生徒保健体育委員会の活動等を通して、保健教育の充実を図る。</li> <li>・給食やお弁当の日を通して、栄養のバランスや自分に適した量を理解させ、地域学校園と連携を図りながら、給食指導の充実を図る。</li> <li>・避難訓練、各安全教室を通して、自然災害や不審者に対する対応等の知識を深め、危機対応能力の育成を図る。</li> <li>・交通安全教室を通して、身の回りの交通環境の理解や安全意識を高めることで、交通安全指導の充実を図り、危機対応能力の育成を図る。</li> </ul>

<p>A7 生徒は、夢や目標をもって、社会に貢献できるよう努力している。</p> <p>【数値指標】 評価項目A5・A7の生徒の肯定的回答が80%以上</p>	<p>○地域学校園内で発達段階に応じたキャリア教育を系統立てて行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「社会人講話」や「宮チャレ」での体験を生かして、働く意味を各自で考えさせる。</li> <li>・キャリアパスポート、キャリア教育アンケートを活用し、将来に向けた自分像を描き、目標をもって学校生活が送れるようにさせる。</li> </ul>	<p>【達成状況】 生徒の肯定的回答は84.9%で、数値指標の80%を4.9ポイント上回っており、昨年度より0.8ポイント上昇している。</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・キャリアパスポートやキャリア教育アンケート等を活用し、地域学校園で9年間のキャリア教育の充実を図る。</li> <li>・宮チャレやボランティア活動などの体験を通して「視野を広く」を合い言葉に地域や社会へ貢献する態度を育てる。</li> </ul>
<p>A8 生徒は、英語を使ってコミュニケーションしている。</p> <p>【数値指標】 評価項目A8の生徒の肯定的回答が80%以上</p>	<p>○小中で一貫して、英語のコミュニケーションスキルを習得させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・英語の授業に生徒同士やALTと英語を使って交流する学習を多く取り入れる。</li> <li>・身近な場面で使える会話例を指導する。</li> </ul>	<p>【達成状況】 ・肯定的回答は生徒83.8%で、数値指標を上回っている。</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・英語の授業を英語で実施する。対話活動では場面を設定したうえで、生徒同士、生徒と教師また、ALTとの会話する機会を増やす。</li> </ul>
<p>A9 生徒は、宇都宮の良さを知っている。</p> <p>【数値指標】 評価項目A9の生徒の肯定的回答が80%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会科や総合的な学習の時間で地域や宇都宮のことを学び、自ら課題を設定して追究する学習を通して、新たな知識の獲得を図るとともに、宇都宮の良さを発見させる。</li> </ul>	<p>【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は80.1%で、数値指標を上回っている。教職員は81.8%で、昨年度と比較して15.1ポイント上昇した。</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員自身が宇都宮市の良さを学ぶとともに、総合的な学習の時間の「宇都宮学」を反省点を生かしつつ継続して実施する。</li> <li>・社会科を始め、各教科学習において宇都宮に関する学習を年間指導計画に明示し、宇都宮の良さを発見する機会を作る。</li> </ul>
<p>A10 生徒は、ICT機器や図書等を学習に活用している。</p> <p>【数値指標】 評価項目A10A25の教職員の肯定的回答が80%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業において生徒が端末を活用し、学習を進めるように指導する。</li> <li>・図書館利用のガイダンスを全学年で年1回以上行い、生徒が学習に活用しやすいようにする。</li> <li>・ICT機器（端末、デジタル教科書、デジタルカメラ等）の活用法について啓発を行う。</li> </ul>	<p>【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は97.7%で、数値指標を大きく上回った。また、保護者、生徒の肯定的回答も80%を上回っている。</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度同様、授業において生徒が端末を活用しやすい環境を整備する。</li> <li>・端末使用のルールを徹底できるよう、生徒指導と協力し、生徒、教員に周知する。</li> <li>・図書館司書と連携し、図書室を利用した学習活動のモデルや授業で活用できる図書を紹介し、図書の利用を促す。</li> <li>・教職員の推薦による購入図書を拡充するなど、より実態に沿った購入計画を立てる。</li> </ul>
<p>A11 生徒は、高齢者に対する感謝やいたわり的心をもっている。</p> <p>【数値指標】 評価項目A2A11の生徒の肯定的回答が85%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道徳の授業において、高齢者への思いやりを育てる題材を取り入れたり、地域へのボランティア活動を通して、高齢者と接する機会をつくったりして、感謝といたわり的心を育む。</li> </ul>	<p>【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は90.5%で、数値指標を上回っている。教職員・保護者ともポイントは上昇したが、地域住民は14.7ポイント下回った。</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・道徳の授業を中心に高齢者に対する感謝といたわり的心を育むとともに、その気持ちが直接伝わるような活動を学校行事や生徒会活動に組み入れる。</li> </ul>

	<p>A12 生徒は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。</p> <p>【数値指標】 評価項目A12の 教職員の肯定的回答が 80%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総合的な学習の時間を中心に、社会科、国語科、理科、保健体育、技術家庭科などの教科において、エネルギー、資源、防災、感染症の問題を取り上げ、生徒たちに議論させる。</li> <li>・校内の掲示コーナーに環境問題を啓発するようなポスターやチラシを貼るなど生徒の関心が高まる環境をつくる。</li> </ul>	<p>【達成状況】 教職員の肯定的回答は79.5%で、数値目標を0.5ポイント下回った。</p> <p>【次年度の方針】 ・今年度に引き続き、総合的な学習の時間を中心に、社会科、国語科、理科、保健体育科、技術・家庭科などの教科学習においても「持続可能な社会」について取り上げ、年間指導計画に明示し、考えさせたり議論させたりする機会を作る。</p>
	<p>A13 教職員は、特別な支援を必要とする生徒の実態に応じて、適切な支援をしている。</p> <p>【数値指標】 評価項目A13の 教職員の肯定的回答が 80%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育相談を充実させ、生徒一人一人の困り感の把握に努める。</li> <li>・特別支援教育校内支援委員会や特別支援教育部会において特別な支援を要する生徒について共通理解を図り、適切な対策を講じる。</li> </ul>	<p>【達成状況】 教職員の肯定的回答は100%であり、数値目標を20ポイント上回っている。</p> <p>【次年度の方針】 ・学年や特別支援教育部会などを活用して、個別の支援計画の有効活用を図るなど、情報共有を徹底するとともに、組織力を生かした対策を立てて実践する。</p>
目 指 す 学 校 の 姿	<p>A14 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。</p> <p>【数値指標】 評価項目A14の 生徒の肯定的回答が 90%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎日の校内巡回やスタンダードダイアリーの確認、定期的な教育相談やいじめ調査等を活用し、いじめへの早期対応や早期発見・未然防止に努める。</li> <li>・全校生徒による「いじめゼロ標語」の作成と、生徒会生活委員を中心となって「いじめゼロポスター」の作成や呼びかけなどを実施する。</li> <li>・学校のいじめ対策について、保護者会やホームページ、学年通信等、あらゆる機会を利用して周知していく。</li> <li>・いじめの問題は、学校、家庭、地域及び関係機関が連携して取り組むべき問題であることを機会あるごとに啓発していく。</li> </ul>	<p>【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は95.0%で、数値目標を上回っている。保護者・地域住民の肯定的回答は83.0%、100%とそれぞれ昨年度を上回った。</p> <p>【次年度の方針】 ・年5回のアンケートや、教育相談等で生徒の様子把握に努める。 <li>・全校生徒によるいじめゼロ標語の作成やリボンの掲示・放送集会等を行い、いじめが許されない行為であるという意識を学校全体で共有していく。</li> <li>・生徒指導通信などの各種たよりやホームページを通して周知するとともに、いじめの問題について職員研修を行い、早期発見・未然防止のためのよりよい方策について検討していく。</li> </p>
	<p>A15 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。</p> <p>【数値指標】 評価項目A15の 生徒の肯定的回答が 80%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1日休んだら電話連絡、2日休んだら家庭訪問の原則を守り、いきしぶり等の早期対応を図る。</li> <li>・生徒同士がお互いを認め、励まし合える学級の雰囲気作りに努める。</li> <li>・学習室(別室)の環境整備と学習支援の充実を図る。</li> </ul>	<p>【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は95%であり、昨年度を2.0ポイント上回り、数値目標を15ポイント上回っている。</p> <p>【次年度の方針】 ・本年度、体制や学校の方針が周知でき、体制も整ったので、次は、不登校や別室登校になる前の対策や、行き渋りが見られた場合の早期対応策について検討し、共有する。</p>
	<p>A16 教職員は、外国人児童生徒等の実態に応じて、適切な支援をしている。</p> <p>【数値指標】 評価項目A13A16の 教職員の肯定的回答が 80%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国際理解や異文化理解の教育の推進を図り、違った習慣や考えをもった生徒へ理解を示す態度を育てる。</li> <li>・日本とは違った思考にも寛容に対応し、生徒の実態に応じた配慮を行う。</li> </ul> <p>○地域学校園内や他区から転入学してくる外国人生徒の情報を迅速に集め、登校初日から対応できるような校内体制を作れるようにする。</p>	<p>【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は100%であり、数値目標を20ポイント上回っている。</p> <p>【次年度の方針】 ・日本の文化や習慣にスムーズに適応できるよう、生徒の実情に合わせて必要な支援を行う。</p>

<p>A17 学校は、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。</p> <p>【数値指標】 評価項目A17の生徒の肯定的回答が85%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・居がいのある学校をめざし、学校行事等生徒が主体的に活動できる場をより多く設定し、自尊感情を育成する。</li> <li>・学校行事や生徒会活動の目標や趣旨を十分に理解させ、お互いに励まし、認め合う集団づくりを実践していく中で、生徒一人一人が達成感や自己肯定感を得られるよう諸活動を推進していく。</li> </ul>	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の肯定的回答は87.0%で、数値指標を上回っている。</li> </ul> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・クラスや学年ごとに互いを認め励まし合う雰囲気の醸成に努めているため、次年度も継続する。</li> <li>・「若中プライド賞」を継続し、生徒の善行の表彰を行い、生徒の達成感や自己肯定感を高める一助とする。</li> </ul>
<p>A18 教職員は、分かる授業や生徒にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。</p> <p>【数値指標】 評価項目A18の教職員の肯定的回答が85%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○職員研修等を通してICT機器をはじめとした教具の効果的な活用を推進し、分かる授業への改善を図る。</li> <li>○習熟度別学習やTTなど、指導形態を工夫し、個に応じたきめ細かな指導を行う。</li> </ul>	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員の肯定的回答は100%で数値指標を上回っている。生徒の肯定的評価も91.8%で、昨年から3.3ポイント上昇した。</li> </ul> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業力向上研修の充実を図り、教職員一人一人が授業力向上を実感できる研修を計画、実施する。</li> <li>・習熟度学習やTTなど指導形態を工夫し、生徒一人一人が習得を実感できるきめ細やかな指導を行う。</li> </ul>
<p>A19 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 評価項目A19の教職員の肯定的回答が80%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・SCやMS、かがやきルーム指導員に週1回開催する教育相談部会に参加してもらい連携を図る。</li> <li>・地域コーディネーターと地域連携教員の連携を密にし、信頼関係を構築しながら業務を遂行する。</li> <li>・かがやきルームを活用し、生徒への学習支援を促進する。</li> <li>・ステップアップルームをより多くの教職員の対応として、多くの教職員で見守るスタイルを確立する。</li> </ul>	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員の肯定的回答は100%であり、数値指標を20ポイント上回った。昨年度の97.9%から、2.1ポイント上昇した。</li> </ul> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・SC、MS、かがやき指導員、ステップアップルームのより良い活用を模索し、全職員でのサポート体制を維持していきたい。</li> <li>・コロナ禍においても実践可能な地域との連携について方策を工夫してつながり感を高める取組を検討し、実践する。</li> </ul>
<p>A20 学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 評価項目A20の教職員の肯定的回答が80%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会議のペーパーレス化、一斉メール配信による連絡の徹底など、効率化を意識した業務の改善を行う。</li> <li>・行事の見直しや校務分掌の再編成に取り組む。</li> <li>・各分掌の計画の段階から業務改善の視点を盛り込む。</li> <li>・ノー残業デーを月1回実施し、教職員の働き方に関する意識改善を図る。</li> </ul>	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員の肯定的回答は77.3%であり、数値指標を下回った。昨年度の64.4%と比較すると12.9ポイント上昇した。</li> </ul> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークライフバランスの視点に立って、「新しい生活様式」にも合致するバランスの良い教育課程を立てる。</li> <li>・PDCAサイクルに基づき、引き続き行事の見直しや校務分掌の再編成に取り組む。</li> </ul>
<p>A21 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。</p> <p>【数値指標】 評価項目A21の教職員の肯定的回答が80%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒会を中心に合同のあいさつ運動を行ったり、ボランティア活動で交流したりすることにより、生徒の地域学校園の一員であるという意識を高める。</li> <li>・各教科において小中連携を意識した一貫性のある授業実践を行うために教科ごとに学習のPDCAサイクルを確立し、カリキュラムマネジメントの実現を図る。</li> <li>・学んだ知識や技能を活用する学習活動を意図的に実施し、思考力・判断力の育成を図る。</li> </ul>	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員の肯定的回答は93.2%であり、数値指標を上回っている。しかし地域住民、保護者及び生徒の肯定的回答は昨年度よりも大幅に減少している。</li> </ul> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒会を中心に行っているWGSあいさつ運動やボランティア活動での交流を、校内の掲示板等を利用して生徒へ積極的に情報発信していく。</li> <li>・生徒会朝会や校内放送等を利用して、活動の実績報告やボランティアの募集等を行い生徒に積極的に情報の発信を行う。</li> </ul>

<p>A22 学校は、地域の教育力を生かした特色ある教育活動を展開している。</p> <p>【数値指標】 評価項目 A22 の教職員の肯定的回答が 80%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校に隣接するコミセンを放課後の学習支援の会場とし、地域の講師が生徒に勉強を教える体制を作る。</li> <li>・地域協議会が中心となって地域の人材を募集し、図書館やバラ園などの環境整備ボランティアに参加する体制を作る。</li> <li>・生徒会と地域協議会との意見交換会を実施し、地域について考える機会を作る。</li> </ul>	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員の肯定的回答は 100%であり、数値指標を上回っているが、地域住民及び生徒の肯定的回答は昨年度よりも減少した。</li> </ul> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本年度創設した、生徒会と地域協議会の意見交換の場である、地域未来会議を充実させ、より地域の実態を反映した教育活動を行っていく。</li> </ul>
<p>A23 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、よりよい生徒の育成に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 評価項目 A23 の教職員と地域住民の肯定的回答がともに 80%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・若松原中学校地域協議会との連携を図ることを通して、地域の教育力を学校教育活動に生かせる場を設けていく。</li> <li>・地域や企業に本校の実態についての情報を積極的に発信することなどを通して、連携を深め、1年生の「働く人に学ぶ」、2年生の「社会体験学習」において、より効果的な学習が展開できるように努力していく。</li> </ul>	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員の肯定的回答は 97.7%と数値指標を大幅に上回っているが、地域住民の肯定的回答は 60%と大幅に下回っている。</li> </ul> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・次年度も各種便りを積極的に活用するとともに ホームページについては更新間隔をできるだけ短くし、保護者・地域住民への最新情報の発信に努める。</li> <li>・コロナ禍で停滞した地域協議会との連携をコロナ禍を経た新たな形態を作り上げていく。</li> </ul>
<p>A24 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。</p> <p>【数値指標】 評価項目 A24 の保護者と地域住民の肯定的回答がともに 80%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設の老朽化が進み、修繕が必要な箇所が多数あるため、生徒の安全を第一に考えながら、市教委と連絡を密にし、計画的に修繕を進めていく。</li> <li>・毎月の安全点検を生徒と一緒にを行い、安全な学習環境をつくるとともに、生活安全に対する関心を高める。</li> <li>・地域協議会等で、施設整備に関して情報発信を行うなど、地域と一体になって取り組む。</li> </ul>	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者の肯定的回答は 91.4%、教職員は 97.7%であり、数値指標を上回っているが、地域住民の肯定的回答は 75.0%と数値指標を下回っている。</li> </ul> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域住民の考える課題を明確にし、その改善も含めて毎月の安全点検や修理が必要な個所の報告・連絡を密にして計画的に修繕を進めていく。</li> </ul>
<p>A25 学校は、学習に必要な ICT 機器や図書等を整えている。</p> <p>【数値指標】 評価項目 A10A25 の教職員の肯定的回答が 80%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報担当者の責任のもと、ICT 機器の一括管理を行い、各教科の学習に必要な ICT 機器（デジタル教科書、デジタルカメラ等）の整備を行い、併せて教職員への周知を図る。</li> <li>・端末を使用して授業が行える環境を整備する</li> <li>・図書館教育担当者が授業に使える図書の希望をとり、図書の充実を図る。</li> </ul>	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員の肯定的回答は 97.7%で、数値指標を大きく上回った。また、保護者、生徒の肯定的回答も 80%を上回っている。</li> </ul> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本年度に引き続き、教員が手軽に利用しやすいよう、保管場所や貸し出し方法の工夫を行う。</li> <li>・端末を使用して授業が行いやすい環境を作るため、周辺機器の整備を行い、管理と運用を工夫する。</li> <li>・教科学習や総合的な学習に時間に図書を利用する機会が増えるよう各年間指導計画に活用場を明示する。</li> <li>・教職員の推薦による購入図書を拡充するなど、より実態に沿った購入計画を立てる。</li> </ul>

本校の特色・課題等	<p>B 1 読書の習慣化を図り、心豊かな生徒を育成する。</p> <p>【数値指標】 評価項目 B 1 の生徒の肯定的回答が 80%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校図書館、学級文庫の整備を進めるとともに、「図書だより」や掲示物を活用して良書を積極的に紹介する。また、年間を通して朝の読書を定着させる。</li> <li>・読書推進活動を強化するとともに、家庭における読書時間の確保などに協力を仰ぎながら、読書意欲の向上につなげる。</li> </ul>	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の肯定的回答は 70.4%で、数値指標を下回っている。</li> </ul> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校司書の協力を得ながら、図書委員会の活動を活性化させ、ブックトークやビブリオバトルを実施するなどの方法で、読書への意欲を喚起する。</li> <li>・毎日の読書の時間、読書週間や学校図書館のPR活動を充実させ、読書に向かう環境を整える。</li> </ul>
	<p>B 2 生徒は、毎日朝ごはんを食べている。</p> <p>【数値指標】 評価項目 B 2 の生徒の肯定的回答 90%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・朝ごはんを食べることによる学習面や生活面への効果を科学的に指導するとともに、各家庭への理解と協力を引き続きお願いしていく。</li> <li>○地域学校園としてお弁当の日を通して小学校から食への意識を高めていくことも実施する。</li> </ul>	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の肯定的回答は、92.2%、教職員・保護者も95.5・92.2%で、数値指標を上回っている。</li> </ul> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食育だよりを通して食に関する各家庭への理解と協力を得られるよう働きかける。</li> <li>・地域学校園を通して小中一貫した食への指導の意識を高めていく。</li> </ul>
	<p>B 3 チャイムを守って授業にのぞんでいる。</p> <p>【数値指標】 評価項目 B 3 の生徒の肯定的回答が 85%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒指導部と連携し、時間を守ることの大切さを掲示物等でPRし、また、教師自ら率先垂範し、生徒の意識を高めていく。</li> <li>・各クラスのリーダーや生徒会に働きかけ、「5分前行動」「2分前着席」の呼びかけを行い、時間を守るムードの醸成を図る。</li> </ul>	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の肯定的回答は 79.7%であり、数値指標を下回っている。教職員評価は 90.9%で、昨年度から 12.2 ポイント向上したが、生徒の意識とはギャップがある。</li> </ul> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「チャイム着席」を学習規律の重点項目として位置づけ、教職員が一丸となって指導に当たり、習慣化を図る。</li> <li>・生徒が主体的にチャイム着席を守れるよう、生徒会に働きかけ向上を図る。</li> <li>・「立腰」を継続し、午後の授業におけるチャイム着席を定着させる。</li> </ul>
	<p>B 4 居がいのある学校づくりのひとつとして生徒主体の学校行事に向け改善を図る。</p> <p>【数値指標】 評価項目 B 4 の生徒の肯定的回答が 85%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒が達成感を得られるよう、計画的な準備と細かな点にも配慮された指導を心がける。</li> <li>・「生徒の生徒による生徒のための」学校行事となるよう、教職員が共通理解を図り、生徒の自主的な活動を促すことで、生徒の自尊感情の育成や他者理解を意図的に推進する。</li> <li>・地域未来会議等を活用し、地域からも信頼できる学校づくりの一助となる、学校行事を計画する。</li> </ul>	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の肯定的回答は、96.5%であり、数値指標を上回っている。また、教職員、地域住民が 100%、保護者も 97.8%とともに高い評価であった。</li> </ul> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・先が見えないコロナ禍での学校行事ではあるが、できない理由を探るのではなく、どのようにすれば、実施することができるかを、生徒とともに考え実施できる計画と振り返りを工夫し達成感を味わわせる工夫を行う。</li> </ul>
	<p>B 5 生徒は、地域でのボランティア活動や行事に参加している。</p> <p>【数値指標】 評価項目 B 5 の教職員の肯定的回答が 85%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒会で企画運営を行う地域のクリーン活動を行い、ボランティア精神を育てる。</li> <li>・地域の行事のポスターを貼って紹介するなどPR活動によって参加を促す。</li> <li>・ボランティア委員会でボランティアカードを作成し、意欲を高める。</li> </ul>	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員の肯定的回答は 86.4%であり、数値指標を上回っている。</li> </ul> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・リトルクリーンや募金、地域ボランティアなど、すでに生徒が行っているボランティアが地域に貢献しているという実感を抱かせるために、若中プライド賞などを活用し、賞賛する機会を作る。</li> <li>・各種たよりやホームページを利用し、ボランティアの成果を周知する。</li> </ul>

## 〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

### ☆アンケートから概ね良好と考えられること

・数値指標を上回った項目は、以下の24項目であった。

(A1) (A2) (A3) (A4) (A5) (A6) (A7) (A8) (A9) (A10) (A11) (A13) (A14) (A15) (A16) (A17) (A18)  
(A19) (A21) (A22) (A25) (B2) (B4)

・「教職員・保護者・地域住民・生徒の全てで肯定的回答が80%を超えている項目」は以下のように8項目であった。

(A1) (A2) (A3) (A4) (A6) (A14) (A17) (B4)

・(A10) (A25)については、教職員・保護者・生徒の肯定的回答が昨年度と比較していずれも15ポイント以上上昇するなど顕著な成果が現れた。

・保護者の回答では、昨年度と比較して肯定的回答が5ポイント以上上昇している項目が、(A8) (A9) (A15) (A18) (A25) (B3) の6項目あり、5ポイント以上減少している項目はなかった。

### ★アンケートから課題と考えられること

・数値指標を下回った項目は、以下の6項目であった。

(A12) (A20) (A23) (A24) (B1) (B3)

・「評価者の中でいずれかの肯定的回答が70%未満の項目」は以下の通り7項目あった。

(A9) 児童生徒は、宇都宮の良さを知っている。(保護者)

○(A21) 学校は、「小中一貫・地域学校園」の取り組みを行っている。(地域住民) (生徒)

(A22) (A23) 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。(地域住民)

(B1) 生徒は、本(読書)が好きになった。(保護者)

(B2) 生徒は、毎日朝ごはんを食べている。(地域住民)

(B5) 生徒は、地域でのボランティア活動や行事に参加している。(保護者)

## 7 学校関係者評価

・現在の苦しい現状の中で、懸命な学校運営を続けていらっしゃる教職員の皆様に敬意を表し、地域として可能な支援をしていきたいと思えます。

・コロナ禍において他に対する寛容性が失われている現状では、(A2) や(A11)は、100という評価にはなりにくい。

・(A21) (A22) (A23)についても、地域協議会も開催できない状況では、数値の変動も仕方がない。

・例年に比べ、極端に地域から学校に出入りする機会がなくなり、学校の取組や生徒の姿を知ることができなくなっている現状から、学校や生徒に対して意欲や活力がないと判断されている可能性がある。コロナ禍も3年目に入るわけなので、全てを閉ざすのではなく、人数や動線を制限するなど工夫しながら地域との連携が図ればよい。

・(A21)の地域住民の肯定的評価が、低いのは、学校のPR不足があるのではないか。

・(A21)については、教職員と生徒の評価に大きな差異があり、学校は取り組んでいるつもりでも、生徒には地域学校園が浸透していないのかもしれない。

・(A22) (A23) の地域住民の肯定的評価を上昇させるため、本年度行った地域未来会議のような、地域と生徒の交流場面を増やすべきである。その際には、コミュニティーセンターの活用も考えられる。

・地域住民の肯定的評価の低い項目は、アンケート項目の内容理解が十分でないことが原因ではないかと考えられる。

・地域住民には実情が分からない項目があるので、変更もしくは、回答項目から除外すべきである。

・問題解決するために、学校と地域が話し合う(許される範囲にて情報の共有化)が望まれる。

・「学校だより」などの広報誌は、雀宮地区は若中学区でありながら、一切見ることができない。地域協議会委員の中にもそのような方はおり、学校HPを必ずしも見られる環境ではないことから、地域協議会委員には、郵送等で定期的に発送してはいかかが。(協議会事務局で費用・労力を担うことも可能である。)

## 8 まとめと次年度へ向けて(学校関係者評価を受けて)

・本年度は、WEBによる学校評価ということで、保護者の方からの回答が、例年よりも少なかった。今年度は、昨年度のアンケート内容の大幅変更から3年目となり、次年度は項目内容の見直しも検討している。昨年度以前から継続している項目については、目標値を少しずつ高めに設定し、その達成に向け改善を進めてきた。その結果、全30項目中、24項目で目標を達成することができるなど、全体的には良好であったと考える。しかしその反面、目標数値をクリアできなかった項目があった。また、自由記述は、例年に比べ厳しいご意見が減少しているものの、ゼロというわけではない。それらについては期待の表れとして捉え、教職員一同、課題の改善に向けて努力していきたい。

- ・「(A9) 児童生徒は、宇都宮の良さを知っている。」項目に関しては、教職員自身が宇都宮市の良さを学ぶとともに、総合的な学習の時間の「宇都宮学」を継続して実施する。また、社会科を始め、各教科学習において宇都宮に関する学習を年間指導計画に明示し、宇都宮の良さを発見する機会を作るよう改善していきたい。
- ・「(A12) 児童生徒は、『持続可能な社会』について、関心をもっている。」項目に関しては、総合的な学習の時間を中心に、社会科、国語科、理科、保健体育、技術家庭科などの教科学習においても「持続可能な社会」について取り上げるとともに、年間指導計画に明示し、考えさせたり議論させたりする機会を作るなど、SDGs等に係る現代的な諸課題に対応していくための資質・能力の育成に努めたい。
- ・「(A20) 学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。」項目に関しては、ノー残業デーの設定日を工夫するなど、引き続き業務改善を推進していく。
- ・「(A21) 学校は、『小中一貫・地域学校園』の取り組みを行っている。」項目では、これまで以上に情報発信に努め、認知度を高めていく。
- ・「(A22) (A23) 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。」項目は、本年度はじめて開催した地域未来会議を充実させるとともに、コロナ禍で停滞した地域協議会との連携をコロナ禍を経た新たな形態を作り上げていく。
- ・「(B1) ～ (B5)」の項目に関しては、他の調査と重複もあることから、見直しを図っていく。
- ・全体として、学校としてこれまで以上に諸活動に誠意をもって取り組むと同時に、一斉メール配信やホームページ、学校だより等を活用して、より一層、学校の取組や現状を保護者のみならず地域にも発信し、情報を正確に伝え、理解を得る努力を続けていく。